

LIBRARY NEWS 北陵

2023年度1月 図書館だより 第3号



◆第3号発行に際しての雑感—大学入試共通テストの問題を解いてみて—

本年度の大学入試共通テストの世界史Bを解いてみた。秦の始皇帝と宰相李斯の対話などの史料や授業中の先生と生徒の会話からの出題など、とにかく文章量が多い。しかし、問われている内容は教科書の要点であり、しっかり学習している者には難しくない。ただ、正確に速く、文章から要点を見つけることができないと時間がかかってしまう。だからこそ、受験科目の理解力プラス文章の読解力が必要になってくる。

高校生にとって、教科書・参考書はもちろん、日々の生活の中で新聞・各種書物を読むとき、どこが重要で、何について書いてあるのかを意識することの大切さを実感した。
(総務部・図書：藤原茂洋)

◆図書徒然草1(1年2組担任 山崎 先生からの読書案内)

『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書』(著:山崎圭一 出典:SB クリエイティブ株式会社)

今回、お勧めの本を紹介することになり、頭に浮かんだ本がこの本です。小説や文庫本ではないので普段読書する習慣がない、読書は苦手という人でも手に取りやすいと思います。この本は、高校の社会科の先生が監修した本で、世界史を本当に面白くわかりやすくまとめてあります。教科書の文章はどうも堅苦しくて苦手という生徒にもお勧めです。タイトルが異なりますが、「日本史」「地理」「宗教」など様々なタイトルの本もあるので、日本史や地理を選択した人や興味がある人は他の本も手に取ってみてください。歴史が苦手な人でも楽しく読めて、歴史に興味や関心を持てるようになると思います。ぜひ、読んでみてください。

◆図書徒然草2(1年3組担任 今井綾佳先生からの読書案内)

『夜のピクニック』 恩田陸

映画にもなったすごく有名な作品なので、読んだことがある人もいるかもしれません。約80kmの道のりを、高校の全校生が24時間かけて歩く物語です。中学生くらいの時に初めて読んだ感想は、「面白かったな」のようなポジティブなものだったように記憶しています。大人になってから読んだ時は、「青春でうらやましい」と強く思いました。大人になってから読みなおした本のうち、唯一感想が変わった本です。今高校生である皆さんがこの本を読んだ時と、いつか大人になってから読んだ時で、感想が変わるかもしれません。未来へのちょっとした楽しみとして、読んでみてはいかがでしょうか。

《冬の俳句》季節を感じてください。・・・・・・・・・・・・・・・・

成人式終え一冊の本を買ふ	岩崎 健一
わが摘みし芹の香めで七草粥	斎藤 道子
水枕ガバリと寒い海がある	西東 三鬼

本の紹介 本年度後期購入図書から3冊を紹介します。

◆『対決の東国史Ⅰ 源頼朝と木曾義仲』 長村祥知著(吉川弘文館)

鎌倉に残った頼朝と上洛した義仲。ともに反平家の兵を挙げた両雄は異なる路線を進み、対決に至る。彼らは何を重視していたのか。京都との関係を視野に入れ、彼らを取りまく諸勢力の動向をその父親世代から描き出す。



◆『街とその不確かな壁』 村上春樹著(新潮社)

十七歳と十六歳の夏の夕暮れ……川面を風が静かに吹き抜けていく。彼女の細い指は、私の指に何かをこっそり語りかける。何か大事な、言葉にはできないことを——高い壁と望楼、図書館の暗闇、古い夢、そしてきみの面影。自分の居場所はいったいどこにあるのだろう。村上春樹が長く封印してきた「物語」の扉が、いま開かれる。



◆『まち』 小野寺史宜(祥伝社文庫)

両親を亡くし、尾瀬の荷運び・歩荷を営む祖父に育てられた江藤瞬一は、後を継ぎたいと相談した高三の春、意外にも「東京に出ろ」と諭された。よその世界を知れ。知って、人と交われ。それから四年、瞬一は荒川沿いのアパートに暮らし、隣人と助け合い、バイト仲間と苦楽を共にしていた。そんなある日、祖父が突然東京にやってきて…。孤独な青年が強く優しく成長していく物語。



《編集後記》・・・・・・・・・・・・・・・・

今、総務部・図書係では1年間の図書館の貸し出し状況などを調べています。4月(81冊)、5月(75冊)は貸し出し数が多く新学期スタートの新鮮な気持ちと伴に、本との出会いを求めたものと思われまます。他の月は10冊から30冊の範囲で推移しています。1年間を通じてもっと多くの人に図書室を利用してほしいと考えています。また、昼休み、放課後の自習室としても利用してください。(藤原茂洋)